

「松山の授業モデル」について—学習課題の設定—

松山市教育研修センター事務所

Q 「学習課題」とは何か。

- 子どもが、学習の方向性やゴールを自覚（意識）するものです。
- 教師にとっては、指導のねらいやその実現に向けた主たる学習活動、学習内容等を確認（意識）するものでもあります。
- 単元を貫く学習課題、本時の学習課題、学級全体で共有された学習課題、個の学習課題など、位相は様々ですが、一般的に、学級全体で共有された本時の学習課題を指す場合が多いようです。

Q なぜ、学習課題の「提示」でなく、「設定」なのか。

- 主体的な学びを成立させるためには、教師の「教えたこと」を子どもの「学びたいこと」に変えることが重要なポイントになります。そのためには、教師からの一方的な課題提示ではなく、子どもの「問い」を引き出しながら、学習課題を設定していく必要があります。

Q 学習課題を設定するときに留意することは何か。

- 学習課題を設定する教育効果を考えれば、端的には「必然性があり、意欲が高まる学習課題」を設定することが肝要と言えます。少しかみ砕くと次のようになります。
 - ・ 子どもの実態に即している。
 - ・ 学習への興味・関心を高めることができる。
 - ・ 学習する必然性がある。
 - ・ 適度な難易度があり、解決の見通しをもつことができる。
 - ・ 多様な見方・考え方を引き出すことができる。
- 資質・能力の育成につながる目標分析、子どもの実態把握、教材研究等に基づいていることは言うまでもありません。

※ 学習課題の文（よく小黒板などで掲示）に、必ずこれらの全てを盛り込まなければならないことはありません。場合によっては、むしろ文は象徴的に簡潔に示し、学習を見通すための方法や視点などは箇条書きで分かりやすく示したり、意欲化のためにモデルとなる絵や写真、実物などを示したりする方が効果的なこともあります。形骸化しないよう注意しましょう。学習課題をどのタイミングでどう示すかは、教師の腕の見せ所でもあります。

Q 松山の授業モデルに例示されている、学習課題の三つの型（習得・活用・探究）について、どのように捉えればいいのか。

- これから（本時）行われる学習活動が主にどのような学習活動なのか（習得か、活用か、探究か）を、学習課題においても明確に示すことで、学習への取り組み方を、子どもに意識させる意図があります。

- どの型の学習課題を設定するかは、教師が、単元の学習過程の中での、本時の学習活動の位置付けを自覚しているかどうかに関わってきます。
 - ・ 習得型：例「〇〇ができるようになるろう」
 - ・ 活用型：例「〇〇を使って〇〇しよう」
 - ・ 探究型：例「〇〇は〇〇だろうか」「なぜ、〇〇なのか」「どうすれば〇〇できるか」

※ 三つの型を示しているのは、「指導のねらいを実現するためには、教師自身が単元の学習過程を意識し、意図をもって学習課題を使い分けことが大切だ」ということを、授業モデルを通じて、松山の先生方に伝えるためです。「これは探究だ。」「いや探究ではない。」と選別したり、いずれかの型の優位性を議論したりするのが目的ではありません。学習課題を設定する本質から外れないことです。

【参考】

- 『主体的・対話的で深い学び』の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、**習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要**（平成31年中教審答申『新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について』の中の「我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善」）です。
- また、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である『見方・考え方』については、**各教科等の習得・活用・探究という学習過程の中で働かせることを通じて、より質の高い『深い学び』につなげ、それによって、児童生徒の資質・能力の3つの柱の育成を図ることが重要**（文部科学省「平成29年改訂の小・中学校学習指導要領に関するQ&A）」とされています。
- 習得・活用・探究は、学習活動の類型を示したものであり、
 - 「習得」は、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける学習活動、
 - 「活用」は、知識・技能を使って、思考力・判断力・表現力等を育てる学習活動、
 - 「探究」は、自分が見つけた課題を、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を活用して解決する学習活動
 であるといった考え方は、平成20年1月の中教審答申（当時は、習得・活用したことを、総合的な学習の時間等における教科等を横断した問題解決的な学習や「探究」活動へと発展していくことを想定していた）で示されています。

Q 「学習問題」と「学習課題」は、どう違うのか。

- 例えば、「環境問題は、世界中で取り組むべき課題である。」とか、「計算力が課題なので、今日は二桁の掛け算の練習問題に取り組む。」などの使い方から分かるように、個々の問題を集約・総合したものが課題であり、解決を目指す意味合いがより強くなります。
- 「学習課題」が、学習の方向性やゴールを子どもに自覚（意識）させるテーマ性を含むものであるのに対して、「学習問題」とは、その課題を解決するための一つ一つのクエスチョンと言えます。
- ※ 某教科の調査官から、「実践現場において、学習課題か学習問題かを議論したり、使い分けたりすることには、あまり意味はない。子どもが混乱しないようどちらかに統一され、日々の学びに意味を持って位置付くことが重要である。」と、聞いたことがあります。